



生活文化



鷲尾勘解治

66  
まいん

# やまだしゃたく 山田社宅

現代のレトロタウン  
新居浜屈指の高級住宅街



現在の山田社宅

## やまだしゃたく 山田社宅

は、昭和4年ころに建設された新居浜屈指の高級住宅街です。最盛期には1,000人もの人々が住んでいました。

大正14年(1925)年4月、新居浜選鉱場が竣工したころは、辺り一面湿地帯と水田ばかりでした。



所属を示した表札

昭和2年(1927)、鷲尾勘解治は都市計画の一環として、下部鉄道沿線の星越に会社幹部用の住宅(山田社宅)を建設することにしました。



現在の西洋社宅

そこで、この辺り一帯を新居浜選鉱場の廃棄物である「尾鉱」と呼ばれる選鉱カスで埋め立て、社員の休日を利用した奉仕作業「作務」で造成し、250戸程の生け垣で囲まれた庭付き社宅が建設されました。

また、外国人技術者のために2棟の洋館(西洋社宅)も建てられました。

その後、星越周辺には数多くの生活関連施設が置かれました。

昭和8年、私立惣開尋常高等小学校が磯浦から現在地に新築移転しました。同11年、私立別子住友病院本院も惣開から現病院の隣接地に新築移転。昭和12年、職員の福利厚生施設として住友倶楽部、接待館として泉寿亭が完成しました。

今では昭和の趣きを残したこれだけの社宅群は国内には無いといわれています。



現在の別子事業所長住宅

